

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 19(2013)110-114	イタリアにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。2011年、イタリアLazio州において5例のHEV感染が確認された。感染者から分離されたHEVは、遺伝子型4に該当し、中国のブタから分離されたHEVと高い相同性を示した。HEV遺伝子型4は、欧州の他の国からも検出が相次いでおり、欧州域内で新たに拡散した可能性が示唆される。
2	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 19(2013)264-266	フランスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の食品汚染の報告。3次元細胞培養法を用いて、ブタ肝臓から製造されたレバーソーセージ中のHEVの感染能力を検討した。その結果、HEV陽性と事前に確認されたレバーソーセージ4サンプルのうち、1サンプルでHEVの複製が確認された。このような汚染された食品を摂取することにより、HEVに感染する可能性は高いと考えられる。
3	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 18(2012)1282-1289	チェコ共和国、イタリア及びスペインの豚肉生産過程におけるE型肝炎ウイルス(HEV)検出の報告。屠畜場で採取された排泄物、肝臓及び肉のサンプルについて、リアルタイムPCR法によりHEVの有無を検討した。その結果、イタリア(53%)及びスペイン(39%)のサンプルの陽性率は、チェコ共和国(7.5%)よりも高かった。特に高い陽性率であったのは、イタリア及びスペインで採取された排泄物(それぞれ41%及び39%)であり、チェコ共和国では肝臓(5%)及び肉(2.5%)であった。検出されたHEVはいずれも遺伝子型3であった。また、販売店から調達したソーセージからHEVが検出されたのはスペイン(6%)のみであった。豚肉生産過程におけるウイルス拡散防止措置を検討する必要がある。
4	E型肝炎	J Clin Virol. (in press), Mar 6, 2013	ウサギのE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。本報告では、HEVヒト感染株の遺伝子配列等との比較から、ウサギHEVとヒト感染株が密接に関連することを明らかにした。これまでに、ウサギHEVがブタモデルにおいて異種間感染を引き起こす能力があることや、ヒト細胞株内で効率的に複製することが示されている。これらの結果は、ウサギHEVが人獣共通感染症であることを示唆している。
5	E型肝炎	肝臓. 53(2012)631	ヒト初代培養肝細胞(PHC)におけるブタ由来E型肝炎ウイルス(HEV)感染の検討。HEVをPHCに感染させ、感染細胞の蛍光免疫染色を行った。その結果、感染細胞はクラスターを形成し、培養日数が経過するにつれてクラスター数に変化はないものの、クラスター内の感染細胞数が増加した。これは、ヒト肝細胞においてHEVがcell-to-cell感染により持続感染することを示している。臓器移植後の患者の慢性E型肝炎に注意すべきといえる。
6	E型肝炎	日赤医学 64(2012)238	日本国内におけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。国内のある医療機関において、2011年1月から2012年3月までに急性肝炎で受診した患者のうち、7例がHEV-RNA陽性であった。症例の平均年齢は63.8(58～80)歳で、全員男性であった。7例のうち、2例は遺伝子型を特定することができ、いずれも遺伝子型3であった。1例はシカの生肉を摂取する習慣があり、3例は発症前にブタの内臓を喫食していた。いずれの症例も安静及び肝底護薬の投与により症状は改善し、重症化することなく退院した。
7	インフルエンザ	Front Med. 2013/06/13	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)(以下、H7N9)に関する報告。H7N9感染により死亡した浙江省の患者について検討した。患者は家禽への曝露と慢性B型肝炎の既往があった。インフルエンザ様症状、下痢、重症肺炎、持続的な低酸素症の症状を示したが、オセルタミビルによる治療は行われず、患者は呼吸器不全、多臓器不全及び播種性血管内凝固症候群により死亡した。分離されたH7N9は、上海、江蘇省、安徽省等から得られた分離株と非常に類似しており、鳥類起源であることが示された。なお、死亡例から分離されたH7N9でのみ赤血球凝集素遺伝子にアミノ酸置換Q226Iが認められ、ヒトへの感染力の強化との関連が示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	N Engl J Med. 368(2013)1888-1897	中国における鳥インフルエンザA(H7N9) (以下、H7N9)に関する報告。上海、安徽省等の3例の患者は発熱、咳、呼吸困難を示し、急性呼吸窮迫症候群、多臓器不全等の合併症を呈しているも死亡した。3例の患者から分離されたH7N9について遺伝子配列を解析した結果、鳥インフルエンザ(H9N2)の6つの内部遺伝子を有することからH7N9は鳥起源であるとされた。その他、H7N9では赤血球凝集素遺伝子におけるアミノ酸の置換Q226Lや、ノイラミニダーゼのストーク領域における5アミノ酸の欠損が認められた。
9	インフルエンザ	WHO/GAR April 1, 2013	中国における鳥インフルエンザA(H7N9) (以下、H7N9) 感染の報告。中国国家衛生・計画出産委員会は、2013年3月31日、WHOに対してH7N9のヒト感染症例3例を報告した。これらの症例は、中国疾病予防管理センターによる検査で3月29日に感染が確定した。患者は上海で2例、安徽省で1例が確認され、2月19日から3月5日までの間に、呼吸困難を伴う重症の肺炎を発症した。2例は死亡し、1例は現在重篤な状態である。患者の間に疫学的関連は認められておらず、感染源及び感染経路の調査が進められている。
10	インフルエンザ	Clin Infect Dis. 57/SUPPL1, July 8, 2013	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)に関する報告。2011年8月から2012年4月までの間に、疾病予防管理センターへ13例のH3N2v感染の報告がなされた。13例中12例は子供であり、7例が発症前にブタと接触していた。すべての症例で発熱が認められ、1例を除き呼吸器症状が現れた。遺伝子解析の結果、すべてのH3N2vは、2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)pmd09と同じM遺伝子を有していた。H3N2vに対する交叉反応性抗体を持たない小児に感染したものと考えられた。
11	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/swineflu/h3n2v-case-count.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センターは、2012年中のH3N2v感染例が309例であることを公表した。また、2012年7月から2013年3月までの間に、H3N2v感染により入院を要した症例は16例、死亡した症例は1例であった。
12	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-firstcases-2013.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年6月、インディアナ州において4例のH3N2v感染が確認された。4例の患者はいずれも州内の農業フェアに参加しており、ブタとの直接接触の機会があった。疾病予防管理センター(CDC)による解析の結果、今回検出されたH3N2vと昨年流行したH3N2vの遺伝子配列は99%一致した。H3N2vに感染した場合に合併症を引き起こすリスクの高い者は、今年度も引き続きブタ小屋やブタとの接触を避けることをCDCは推奨する。
13	インフルエンザ	ProMED-mail 20130627.1795810	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年6月、インディアナ州において4例のH3N2v感染が確認されたことを受け、州保健当局は、2013年夏期に予定される農業フェアへの参加者に対して予防措置を講ずることを推奨した。4例のH3N2v感染者はいずれも6月16-22日に開催された州内の農業フェアに参加しており、少なくとも2例はブタとの直接接触の機会があった。CDCによると、2012年中の米国内のH3N2v感染者数は309例であり、うち16例が入院し、1例が死亡した。
14	インフルエンザ	J Dermatol. 39(2012)863-864	2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1pdm09)と円形脱毛症との関係を示唆する報告。日本国内において、H1N1pdm09感染後に円形脱毛症が悪化又は誘導された7症例を経験した。1例は10歳の男児で、感染前から脱毛症に悩んでいたが、H1N1pdm09感染から8カ月後、症状の悪化が認められた。4歳の女児では、2006年に脱毛症の治療を受け完治していたが、2010年1月にH1N1pdm09に感染した2カ月後、多発性の円形脱毛症が現れた。7症例とも共通して、H1N1pdm09の感染時に39度を超える高熱と全身倦怠を示した。H1N1pdm09感染と円形脱毛症の発症のタイミングは両者の関連性を示唆している。
15	インフルエンザ	J Virol. 86(2012)9221-9232	2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)型ウイルス(以下、H1N1pdm09)に関する報告。H1N1pdm09はブタ由来のインフルエンザウイルスとしては初めてヒトでの流行が確認された。本研究では、赤血球凝集素(HA)及びノイラミニダーゼ(NA)の活性について、H1N1pdm09と他のブタ由来インフルエンザウイルスとの間で比較検討を行った。その結果、H1N1pdm09のHA及びNA活性はともに弱く、機能的なバランス(HA結合とNA開裂)が認められたが、他のブタ由来のウイルスではこのようなバランスは認められなかった。HA及びNA活性のバランスは、ヒトからヒトへの効率的な感染に必要な因子の一つと考えられた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	インフルエンザ	Prev Vet Med. 110(2013)429-434	ブタ集団内のインフルエンザA(H1N1)pdm09(以下、H1N1pdm09)感染に関する報告。ノルウェー国内のすべてのブタ集団を対象に、H1N1pdm09感染のリスク因子を検索するため、断面調査を実施した。H1N1pdm09に対する抗体陽性率は増殖農場(multiplier herds)(41%)と中核農場(closed nucleus herds)(43%)の間で差は認められなかった。多重ロジスティック回帰による検討では、インフルエンザ様症状を有する農場スタッフの存在が最も重要なリスク因子であり、次が集団の大きさであった。H1N1pdm09のブタ集団への流入を防ぐための重要な方策は、インフルエンザ様症状を有するヒトのブタへの接触を厳しく制限することである。
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20130127.1517145	ノルウェーにおけるインフルエンザA(H1N1)pdm09(以下、H1N1pdm09)のブタでの感染の報告。2013年1月23日、獣医当局は、Gudbrandsdalen県及びRogaland県の農場のブタより採取された2つのサンプルにおいて、H1N1pdm09が検出されたことを明らかにした。いずれの事例とも、ブタが発症する直前に農場の労働者がインフルエンザ様の症状を発症していたことから、H1N1pdm09は農場労働者からブタへ感染したものと考えられた。
18	インフルエンザ	ProMED-mail 20130423.1667643	ベトナムにおけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)感染の報告。2013年4月23日、ハノイ市の病院は、H1N1に感染した少女が死亡したことを発表した。患者は、死亡の2週間前に兄弟から感染したとみられ、4月16日に熱、咳及び息苦しさを呈し、翌17日に重大な呼吸障害が現れ入院した。X線検査では肺の病変が確認され、さらに急速な進行が確認された。抗ウイルス薬による治療が行われたものの、4月23日に患者は死亡した。ベトナムにおけるH1N1感染による死亡率は低く、約0.7%である。
19	インフルエンザ	Plos One. 8(2013)e57576	養豚従事者が2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)pdm09(以下、H1N1pdm09)に対する免疫を有しているという報告。イタリアの養豚従事者123例及び対照群379例についてH1N1pdm09への血清保有率を検討した。その結果、2009年の流行時の前後において、H1N1pdm09に対する血清保有率の有意な上昇が対照群で認められたが、養豚従事者では認められなかった。豚インフルエンザウイルスへの先行感染のため、養豚従事者はH1N1pdm09への交叉免疫を有していた可能性が示唆された。
20	インフルエンザ	The Pig Site (Jan. 23, 2013)	ノルウェーにおけるインフルエンザA(H1N1)pdm09(以下、H1N1pdm09)のブタでの感染の報告。2013年1月23日、獣医当局は、Gudbrandsdalen県及びRogaland県の農場のブタより採取された2つのサンプルにおいて、H1N1pdm09が検出されたことを明らかにした。いずれの事例とも、ブタが発症する直前に農場の労働者がインフルエンザ様の症状を発症していたことから、H1N1pdm09は農場労働者からブタへ感染したものと考えられた。
21	インフルエンザ	Vaccine. 31(2013)500-505	新生子豚における、インフルエンザA型感染への先天性免疫の影響に関する報告。妊娠した母豚を3群に分け、母豚にA/Sw/00239/04株の不活化ワクチンを接種した群(以下、HOM群)、母豚にA/Sw/IL/02450/08株の不活化ワクチンを接種した群(以下、HET群)、母豚にワクチンを接種しなかった群(以下、CRTL群)とした。各群で生まれた子豚に母豚の初乳を飲ませた後、新生子豚のA/Sw/00239/04株への感染のしやすさを検討した。その結果、CRTL群及びHET群ではすべての子豚で感染が認められたが、HOM群の子豚で感染が認められたのは20頭中1頭のみであった。
22	インフルエンザ	黎明 21(2012)52-57	2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)型ウイルス(以下、H1N1pdm09)に関する、日本国内飼育ブタの感染状況の報告。2008年4月から2011年3月までに採取された保存ブタ血清についてA型インフルエンザの抗体スクリーニングを実施したところ、ブタにおける抗体陽性率の推移は、国内のH1N1pdm09感染者数の推移と連動していた。また、HA亜型に関する検討の結果、ブタにおけるA型インフルエンザ抗体陽性率の上昇の原因は、H1N1pdm09の感染であることが示唆された。
23	口蹄疫	OIE Mar. 1, 2013	中国における口蹄疫の報告。発生日 2013年2月18日、アウトブレイクの確定日 2013年2月27日。原因は口蹄疫ウイルス(血清型A)。広東省Shange市の農場においてブタの口蹄疫が発生した。感染疑い例948頭、確定例88頭、屠殺例948頭。感染源は不明又は結論に到達していない。
24	口蹄疫	OIE Jun 9, 2013	中国における口蹄疫の報告。発生日 2013年6月9日、アウトブレイクの確定日 2013年6月9日。原因は口蹄疫ウイルス(血清型A)。雲南省Heping村の農場においてウシ及びブタの口蹄疫が発生した。ウシにおける感染疑い例1213頭、確定例283頭、屠殺例1213頭。ブタにおける感染疑い例554頭、屠殺例554頭。感染源は不明又は結論に到達していない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	口蹄疫	ProMED-mail 20130228.1564205	中国における口蹄疫の報告。中国農務当局は、広東省の農場において口蹄疫のブタ88頭を、チベット自治区の農場において口蹄疫のウシ13頭を確認したことを明らかにした。検査の結果、広東省の口蹄疫は血清型Aであり、チベット自治区の口蹄疫は血清型Oの変異型であると確認された。広東省の農場では948頭のブタが、チベット自治区の農場では37頭のウシが処分された。
26	口蹄疫	ProMED-mail 20130504.1691400	中国における口蹄疫の報告。2013年5月2日、中国農務当局はチベット自治区において口蹄疫の発生を確認したことを公表した。4月25日、Lhasa市内の農場においてウシ145頭が口蹄疫の症状を示しているとの報告があり、検査の結果、口蹄疫A型が確定した。感染拡大を防止するため、地元当局により感染地域が封鎖され、527頭のウシが処分された。
27	口蹄疫	ProMED-mail 20130507.1697497	中国における口蹄疫の報告。2013年5月7日、中国農務当局は新疆ウイグル自治区において口蹄疫の発生を確認したことを公表した。5月2日、Aksu地区の農場においてウシ16頭が口蹄疫の症状を示しているとの報告があり、検査の結果、口蹄疫A型が確定した。感染拡大を防止するため、地元当局により感染地域が封鎖され、239頭のウシが処分された。
28	ロタウイルス胃腸炎	Emerg Infec Dis. 19(2013)1324-1327	オーストラリアにおける新規ロタウイルスに関する報告。オーストラリア北部地域で発生した急性胃腸炎の患者からロタウイルスV585が検出された。V585について遺伝子配列を解析したところ、G10型及びP14型との遺伝子配列の同一性が示され、G10P[14]型とされた。また、VP7遺伝子に関する系統学的解析の結果、V585のVP7遺伝子はウシ由来の株と高い同一性を示した。以上より、V585は新種のG10P[14]型ロタウイルスであり、偶蹄目の宿主からヒトへ伝播した可能性が示された。
29	ウイルス感染	http://www.nih.go.jp/nii/d/ja/sfts/sfts-iasrs/3298-pr3981.html	国内における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)感染の報告。2013年1月30日に国内初のSFTSV感染が確認されて以来、2013年3月7日までに新たに2例の患者が判明した。1例は愛媛県の成人男性(海外渡航歴なし)であり、2012年秋に発熱、食欲低下、下痢が出現した。入院時にダニの咬傷を認めず、入院後に意識障害が出現し、肺炎を併発した。その後呼吸状態の悪化に加え、播種性血管内凝固症候群を併発して全身状態不良となり死亡した。入院中に採取された血液からSFTSV遺伝子が検出された。もう1例は、宮崎県の成人男性(海外渡航歴はなかったが、日常的に山で活動していた。)であり、2012年秋に頭痛、発熱、下痢が出現した。入院時にダニの咬傷を認めず、入院3日後に強い背部痛と血小板の減少が認められた。入院4日目に全身性強直性痙攣を認め、著明な代謝性アシドーシスを合併し、入院5日目に死亡した。入院中に採取された血液からSFTSVが分離された。
30	ウイルス感染	ProMED-mail 20121211.1446670	中東で流行している新規コロナウイルスに関する報告。2012年4月以降、ヨルダン、サウジアラビア及びカタールで流行(少なくとも感染9例、うち5例が死亡)を引き起こしたコロナウイルスは、hCoV-EMC(human coronavirus Erasmus Medical Centre)と命名された。解析の結果、hCoV-EMCはSARSウイルスとは異なる細胞受容体を介して細胞に感染すること、コウモリ、ブタ、ヒトの細胞で増殖することが明らかとなった。hCoV-EMCが多種類の動物に感染するならば、流行の収束を妨げ、周期的にヒトへの感染が続く可能性がある。
31	ウイルス感染	ProMED-mail 20130618.1780170	ベトナムにおけるサーコウイルスの報告。2013年6月18日、研究者のチームは、ベトナムで重篤な脳の感染症に苦しむ患者から新しいウイルスを発見したことを明らかにした。このウイルスは、重篤な脳の感染症を患う644例中28例から検出されたが、脳に疾患のない患者122例からは検出されなかった。このウイルスは鳥やブタで流行するサーコウイルスの一種であり、暫定的にCyCV-VNと命名された。研究者によると、本ウイルスが脳の感染症を引き起こす原因であるか否かまだ確認されていない。
32	BSE	http://www.oie.int/for-the-media/press-releases/detail/article/oie-scientific-commission-maintains-brazil-bse-status-as-negligible-and-recommends-strong-monitoring	ブラジルにおける牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。2013年2月、国際獣疫事務局(OIE)の科学委員会は、ブラジルのBSE症例に関する検討を行い、OIEの基準に従い、ブラジルのリスク状況は「極めてわずかである」ことを撤回しないと結論した。しかし、ブラジルからOIEの検査機関へのサンプル送付が遅れたことについて懸念が示され、サンプルの処理手順に関する詳細な検討と、サーベイランスシステムの改善を求めることが合意された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	BSE	J Clin Microbiol. 50(2012)4171-4174	スイスにおける牛海綿状脳症(BSE)発生の報告。2012年2月、6年6か月齢のウシが、死亡した胎児を出産後、ダウン症候群を発症した。当該ウシは2005年にドイツで生まれ、2007年にスイスへ輸入されていた。スイスBSEリファレンスラボラトリーで検査が行われた結果、BSE陽性が確認された。古典的BSEのサンプルと比較したところ、当該ウシのサンプルでは、PrPバンドが1.3~1.4kDa大きい分子量を示し、7.2kDa以下のバンドが別途確認された。また、当該サンプルは12B2モノクローナル抗体と反応したことから、H型BSE感染が確認された。これは、スイス及びドイツで肉骨粉の給餌が禁止されて以後、家畜がH型BSEに感染した初めての報告である。
34	BSE	J Gen Virol. 93(2012)2740-2748	The protein misfolding cyclic amplification (PMCA)法を用いたBSEウシの末梢組織におけるPrPscの検出に関する報告。PMCA法によるPrPscの検出感度を検討するために、経口的にBSEに感染させたウシから採取した異なる組織の検体48例について標準的PMCAプロトコルを用いて検査した。その結果、頭部ではPrPscが脳、脊髄、神経節、視神経及びパイエル板で確認された。腸間膜リンパ節、副腎においてもPrPscが検出された。また、初の報告として、ウシの食道、皺胃(第三胃)、瘤胃(第一胃)及び直腸において陽性の結果が得られた。
35	BSE	OIE July 12, 2012	米国におけるBSEの報告:発生日 2012年4月19日、最初の確定日 2012年4月23日、報告日 2012年7月12日、原因 プリオン非定型BSE。2012年4月19日にカリフォルニアでBSEのアウトブレイクが発生したとの報告の最終報告。免疫化学的検査とウェスタンブロット検査により、ウシが摂取した飼料と感染は関連がないことと、非常に稀な非定型BSEであることが示された。
36	BSE	OIE Follow-up report No.1 Dec. 7, 2012	ブラジルで発生した牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、その後死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局(OIE)の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であったが、当該ウシの死亡はBSEが原因ではなく、高齢のウシにおけるBSE非定型症例であることが示唆されている。
37	BSE	OIE Follow-up report No.2 Dec. 7, 2012	ブラジルで発生した牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、2010年12月18日、死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局(OIE)の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。当該ウシのサンプルは、OIE陸生動物衛生規約の第11.5.22)によると「死亡動物」及び「9歳以上」の分類に属しており、この分類のために、サンプルを診断する優先順位が低くなり、病理組織学的検査から免疫組織化学的検査の実施までに間隔が生じてしまった。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であったが、当該ウシの死亡はBSEが原因ではなく、高齢のウシにおけるBSE非定型症例であることが示唆されている。
38	BSE	OIE Dec. 13, 2012	ブラジルで発生した牛海綿状脳症(BSE)に関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、2010年12月18日、死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局(OIE)の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。当該ウシのサンプルは、OIE陸生動物衛生規約の第11.5.22)によると「死亡動物」及び「9歳以上」の分類に属しており、この分類のために、サンプルを診断する優先順位が低くなり、病理組織学的検査から免疫組織化学的検査の実施までに間隔が生じてしまった。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であったが、当該ウシの死亡はBSEが原因ではなく、高齢のウシにおけるBSE非定型症例であることが示唆されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
39	BSE	Vet Rec. 172(2013)70	英国における非定型の牛海綿状脳症 (BSE) の報告。監視体制が確立した2001年以降、欧州各地で生化学的特性の異なる約67の非定型BSEが確認されており、ウェスタンブロットリングの結果によりH-BSE又はL-BSEと大別とされている。今回、2001年7月から2012年1月までの期間に英国内でBSE陽性と判定されたサンプルを対象として、非定型BSEの検索を行った。その結果、4サンプルでL-BSEが確認された。L-BSEの4頭はいずれも高齢(11-21歳)であり、市場への流通は認められなかった。
40	BSE	平成24年12月11日付薬食発1211第8号厚生労働省医薬食品局長通知	ブラジルで発生した牛海綿状脳症に関連した、日本国内での対応。2012年12月11日、厚生労働省は通知を发出し、ブラジル産のウシ等由来原材料を使用した医薬品、医療機器等について、公衆衛生上のリスクは回避されており、既に製造販売された製品の市場回収は必要ないものとした。その上で、各事業者に対し、ブラジル産のウシ等由来原材料の使用状況及び切替えの対応等について自主点検を依頼した。
41	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20130123.1510728	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ダナン市の病院より、汚染された豚肉又はブラッドソーセージを食べてレンサ球菌に感染した3例の患者を治療中であると報告された。ダナン市保健当局は、豚肉の消費が増加するTet holiday seasonが近付いていることから、感染拡大に対して注意を呼び掛けている。
42	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20130222.1555258	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ハノイの病院は、レンサ球菌に感染した2例の患者を治療中であると公表した。入院時、患者は膿瘍、髄膜炎、敗血症、四肢の壊疽等の重篤な合併症を呈する危篤状態であった。専門家は、病気のブタを解体したり喫食したりせず、症状が現れた場合にはすぐに治療を受けることが重要であると注意を促した。
43	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20130315.1587613	中国におけるレンサ球菌感染の報告。保健当局は、2013年3月9日、レンサ球菌感染で死亡した症例1例について調査していることを明らかにした。患者は基礎疾患を有する85歳の男性で、最近の海外渡航歴はなかった。患者は、3月2日に発熱と嘔吐を発現し、入院の後、敗血症と診断され、3月4日に状態が悪化し死亡した。血液培養により <i>Streptococcus suis</i> が検出された。
44	レンサ球菌感染	The Pig Site (Feb. 25, 2013)	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。2013年2月22日、ベトナム国営ラジオ放送は、レンサ球菌の感染者2例が死亡したことを報じた。2例とも食肉加工に従事していた。一例は、2月7日に高熱、腹痛及び嘔吐を発現して入院し、翌日に死亡した。もう一例は、2月9日に同様の症状を発現して入院し、翌日に死亡した。ダナン市の保健当局は近隣のブタの血液サンプルを検査し、 <i>Streptococcus suis</i> に汚染されていることを確認した。昨年度、ベトナム国内のレンサ球菌感染者は3例であり、うち2例が死亡した。
45	レンサ球菌感染	The Pig Site (Mar. 4, 2013)	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ハノイの病院からの報告によると、2013年に入って以降、レンサ球菌感染が計16例確認された。このうち9例は、2月10日から20日までの祭典期間中に確認された。医師の話では、半数の患者はブタの生血を使った料理 (tiet canh) を食していた。
46	レンサ球菌感染	Scientific World Journal. (2012)302386	中国北東部における <i>Streptococcus suis</i> 検出の報告。 <i>S. suis</i> のヒトへの感染は、気温と湿度の高い中国南部から主に報告されている。今回、北東部の3省の養豚場の健康なブタから <i>S. suis</i> が分離された。さらに、分離された血清型2は、過去に南部の四川省及び江蘇省でレンサ球菌毒素性ショック症候群の蔓延を引き起こした island-positive ST-7 に属していることが確認された。 <i>S. suis</i> は中国北部への分布を広めている可能性がある。
47	サルモネラ症	The Pig Site (Feb. 27, 2013)	ノルウェーにおけるサルモネラ感染の報告。2013年2月27日、ノルウェーの獣医当局 (SFA) は、Romerike 県の農場のブタから採取されたサンプルにおいて <i>Salmonella Virchow</i> が検出されたことを明らかにした。SFAは感染防止のための措置を既に講じている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
48	エルシニア感染	Scientific World Journal. 2013:769097	ブラジルにおける <i>Yersinia enterocolitica</i> の病原性に関する報告。 <i>Y. enterocolitica</i> の生物型1Aは、従来より病原性を持たないと報告されてきた。今回、サンパウロ市の食肉加工工場及び市場で採取された <i>Y. enterocolitica</i> の生物型1Aの122株について、3種類の病原性遺伝子 (<i>ail</i> 、 <i>virF</i> 及び <i>ystA</i>) の有無を検討した。その結果、94株(77.05%)は少なくとも1つ、67株(54.92%)は全ての病原性遺伝子を有していた。この結果は、1A型が病原性遺伝子を獲得した可能性を示唆している。
49	クロストリジウム・ディフィシル感染	Emerg Infec Dis. 19(2013)1032-1034	<i>Clostridium difficile</i> の感染経路に関する研究報告。オランダの農場において、ブタ、養豚業従事者、その家族等を対象に、 <i>C. difficile</i> の腸管定着について調査を行った。その結果、毎日ブタと接触する者のうちの25%(48例中12例)、毎週ブタと接触するもののうちの14%(22例中3例)から <i>C. difficile</i> が検出された。この割合は、年に1回以下の接触しかない者と比べると有意に高い。また、同じ養豚場内のヒト及びブタから同一の <i>C. difficile</i> リボタイプ078が確認され、MLVA(Multi-locus variable number of tandem-repeat analysis)の結果でも両者の遺伝的関連が示された。以上より、 <i>C. difficile</i> はブタとヒトの間を種間伝播している可能性が示された。
50	トキソプラズマ症	Parasitol Res. 112(2013)2403-2407	ルーマニアのブタにおけるトキソプラズマの血清保有率に関する報告。ルーマニアでは様々な形態でブタの飼育がおこなわれている。 <i>Toxoplasma gondii</i> に対する血清保有率を飼育の形態ごとに検討した結果、裏庭で飼育された場合の血清保有率(30.5%、783/2,564)は、ブタ小屋(12.4%、46/371)若しくは肥育豚舎(0%、0/660)で飼育された場合、又は野生の場合(16%、24/150)に比べて高かった。裏庭で飼育された場合、宿主動物(ネコ)や汚染された肉製品との接触のために、小屋等で飼育された場合に比べて曝露のリスクが高いものと考えられる。
51	細菌感染	The Pig Site (May 23, 2013)	ノルウェーにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の報告。2013年5月23日、獣医当局は、ノルウェー国内のブタから採取された4サンプルにおいてMRSAが検出されたことを明らかにした。保健当局及び養豚事業者は感染拡大を防ぐための方策を検討している。
52	細菌感染	Vet Microbiol. 164(2013)299-306	オーストリアにおけるウシの <i>Mycoplasma bovis</i> 感染の報告。2009年にアルプス地方で発生した <i>M. bovis</i> 感染は、2010年から2011年にかけて急速に拡大した。RAPD(Randomly amplified polymorphic DNA)分析法及びMLVA(Multi-locus variable number of tandem-repeat analysis)による検討の結果、単一株の <i>M. bovis</i> が複数の地点から繰り返し発生したことが示唆された。この事象は、アルプス地方における特殊な事情(移牧や牧草地の共同使用など)を反映している可能性がある。
53	旋毛虫症	ProMED-mail 20130518.1722197	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。コルドバ州の都市Rio Segundoにおいて51例の旋毛虫症患者が確認された。コルドバ州の保健当局によると、感染の原因は一般家庭で解体された食肉から加工されたサラミであると考えられている。保健当局は、公衆衛生に係る査察を受けていない施設で生産された豚肉又は豚肉加工製品の購入及び摂食が危険であると警告した。